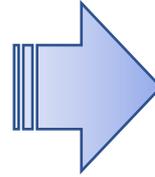


学級会の良さや意義について

特別活動



学級活動
クラブ活動
委員会（生徒会）活動
学校行事



自分で動ける子供
創造的な活動をする子供
意見を伝える子供
自信がもてる子供

協力し合うクラス
秩序を維持するクラス
活気のあるクラス
復元力のあるクラス

特別活動の内容は、学級活動・クラブ活動・委員会（生徒会）活動・学校行事で構成されています。学校では、子供の構成や規模、活動の目的が異なる集団が存在しています。様々な集団活動を通して子供の資質・能力を育成します。上図の四角囲みは、先生方が常々「こんな子供に育てほしい」「こんな学級にしたい」と思われていることではないでしょうか。「活動あって学びなし」としばしば言われる特別活動ですが、教師が活動の目的を明確にし、目指す子供像や学級像を思い描きながら取り組むことで「活動あって大きな学びあり」に変わります。

右図の四角囲みは学級会をして得られる効果の一例です。

「学級会を頻繁にしている学級は、授業中の意見交換が活発である。」先輩の先生がおっしゃった言葉です。どうしてそうなるのかは必然なことだと思います。学級会というパブリックな場で自分の意見を伝えることに慣れますし、意見を聞く側の態度も徐々に育っていきます。学級会の中で活発な意見交換ができるようになると、議論から熟議へと変化してきます。このような学級になると、普段の教科指導の授業がとても面白くなるでしょう。一方、授業中、子供のつぶやきばかりを拾ってしまったり、ある特定の子供の意見だけで進めたりしてしまうと、広がりや深まりを見せずに教師主導の授業になってしまうことがあります。また、ペアやグループ学習では、自分の考えの伝達だけに終わってしまうことがあるのではないのでしょうか。

意見を伝えることの爽快感
学級の一員としての自覚
自己肯定感の向上
自己有用感の育成
未知なるものへの高揚感
教科授業での活性化
組織運営の円滑化

ある6年生の子供が書いた日記の一節を紹介します。

「私は学級会が好きです。なぜかという、間違いがないからです。」

何を言っても良いということではないですが、学級会では間違いはありません。この子供は率先してみんなの前に出るようなタイプではありませんでしたが、授業中も発表できるようになったり、進んで役割を引き受けたりするようになりました。特別活動は、開発的生徒指導にもある「出番・役割・承認」が実現しやすい学習活動です。この子供も学級会を通して自己肯定感が高まり、自己実現が図られたものだと思います。教師として、このような子供が輝ける場面をつくってあげたいものです。